

刑法

次の【事例】を読み、下記の2つの【設問】に答えなさい。解答用紙は、表面(30行)のみを使用すること。

【事例】

1 ある日、甲は、壊れた自宅のテレビを買い換える金がなかったため、近くのショッピングセンター「セントラル多摩店」(以下、単に「店」と言う)の家電売場に陳列してあるテレビを、代金を払わないで無断で自宅に持ち帰ることを計画した。甲は、親友の乙が自宅に遊びに来たので、自分の計画を打ち明けたが、乙は冗談だと思って聞き流した。

2 翌日、甲は、上記計画を実行するため店の2階家電売場に赴き、陳列してあったテレビ(幅469mm、高さ409mm、奥行き167mm)を買い物カート上のかごに入れ、買い物カートを押したまま2階にある男性用トイレに入り、トイレ内の洗面台下部に設置されている収納棚の中にテレビを隠した。なお、店の2階にレジはなく、顧客が購入した商品の代金は1階レジでまとめて払うこととされていた。

3 その後、甲は、テレビを店外に持ち出すため、テレビを収納できる大きな袋を店で購入したが、その際の甲の言動に不審を感じた店員からの連絡で警備員Aが甲を追跡し、トイレに入って洗面台に近づいた甲に後ろから声をかけた。甲は、犯行を気づかれたと思い、逮捕を免れるため、振り向きざまAの胸を右手で1回強く押して1、2歩後退させ、トイレの外に逃げ出した。

4 Aは、すぐに甲を追いかけて行き、トイレを出たところで甲を捕まえて店の床に押さえつけた。ちょうどそこに乙が通りかかったので、甲は乙に向けて「助けてくれ」と叫んだ。乙は、甲が前日に話していた計画を実行に移して警備員に逮捕されそうになっていることを認識した上で、甲を助けるため、持っていたナイフをポケットから取り出して、「手を離せ」と言いながらAにこれを突きつけた。乙の行為を見た甲は、Aに対して「手を離さないで殺すぞ」と叫び、乙の行為と甲の発言に恐れをなしたAが甲から離れた隙に、甲と乙は店から逃走した。

5 その後、テレビは、店の店員によって発見され回収された。

【設問】

(1) 事例について、甲及び乙の罪責を論じなさい(建造物侵入罪および特別法違反の点を除く)。

(2) 事例について、甲に建造物侵入罪が成立すると解する見解と成立しないと解する見解について、それぞれその論拠を同罪の保護法益に触れながら説明しなさい(自説を述べる必要はない)。

(120点)